令和６年度　衆議院海外派遣　報告書概要

令和６年８月 15 日

１．団名

衆議院ベトナム及びインドネシアにおける環境保全状況等調査議員団

２．目的

ベトナム及びインドネシアにおける環境保全状況等調査のため

３．派遣議員団

団長	環境委員会	委員長	務台　俊介　君（自民）
	環境委員会	理　事	伊藤　忠彦　君（自民）
	同	理　事	森田　俊和　君（立憲）
	同	理　事	畦元　将吾　君（自民）
同行	衆議院調査局調査員		大　北　宏　美

４．派遣期間

令和６年７月 28 日（日）から８月３日（土）までの７日間

５．派遣国

ベトナム、インドネシア

６．主な調査内容

（１）ベトナム

①環境省の都市間連携事業や外務省の草の根・人間の安全保障無償資金協力等により、日本企業の浄化槽が導入され、現地の水質改善に貢献している状況について調査するため、ハロン湾ダウゴー島の浄化槽を視察した。

②ベトナム国会を訪問し、科学技術環境委員会委員長等とベトナムにおける環境政策に関する考え方、今後の施策の方向性について意見交換を行った。

③ベトナムで事業展開している大気汚染防止に関係する日系企業関係者とベトナムにおける大気汚染の防止の取組状況や課題等について意見交換を行った。

④二国間クレジット制度（ＪＣＭ）の設備補助事業等による資金支援を受け、日本企業と現地廃棄物事業者との合弁企業が、廃棄物の焼却処理による発電を行い、廃棄物の適正処理、化石燃料を使用しない発電による電力供給等を実現している状況について調査するため、バクニン省の廃棄物発電施設を視察した。

（２）インドネシア

①ごみの分別回収により焼却炉に頼らない低コストな廃棄物処理システム（いわゆる大崎システム）を導入し、埋立ごみの減量化を図っている状況について調査するため、ジャカルタリサイクルセンターを視察した。

②インドネシアで事業展開している日系光学機器メーカーを訪問し、環境保全の取組について視察した。

③日本企業の子会社であるインドネシアで唯一の総合環境・廃棄物処理企業において、産業廃棄物の最終処理を中心に、液処理、リサイクル、土壌浄化等総合的な環境事業が行われている状況について調査するため、ボゴール県の有害廃棄物処分場を視察した。

④ラフマット・ゴーベル インドネシア国会副議長とインドネシアにおける環境政策に関する考え方、今後の施策の方向性について意見交換を行った。

⑤海洋プラスチックごみに関する世界の情勢等について調査するため、東アジア・ＡＳＥＡＮ経済研究センター（ＥＲＩＡ）に設置されている海洋プラスチックごみに関する地域ナレッジセンターを訪問し、意見交換を行った。

⑥インドネシアにおけるＪＣＭの状況について調査するため、ジャカルタの複合施設であるスナヤンスクエアにおける太陽光発電及びチラーを視察した。

⑦日本の鉄道技術が導入された地下鉄であるジャカルタ都市高速鉄道（ＭＲＴ）が、大気汚染が深刻なジャカルタにおいて、環境負荷の軽減にも寄与している状況を視察した。

（注）報告書概要は、速報性を重視した概要版として作成・掲載しているものです。詳細な内容については報告書を御参照ください。